

完了報告書（平成 22 年度）

提出者 佐々木祐

提出年月日 2011 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文

映像表現における移住者の親密圏表象

英文

A case study about the representation of intimate spheres by migrants.

【メンバー構成】

研究代表者 佐々木祐

幹事

メンバー

【ねらいと目的】（600 字程度）

申請者は、2008—2009 年度、本 GCOE の助成を受けラテンアメリカにおける移住労働者の生活世界に関する研究を行った（国際共同研究「移動するマイノリティの生き延びの為の親密圏生成に関する実証的研究」）。その過程で申請者が注目したのは、移住者がその苛烈な生を生き延びる為に援用する映像表現の力と可能性についてであった。

本次世代研究においてはその成果を引き継ぐ形で、より具体的な移住労働者の親密圏（家族・親族関係、同郷出身者ネットワーク、労働現場における水平的連携など）形成の過程について調査を行う。近年社会科学において、ビジュアルリティ研究の重要性は増大してきている。自らの生を焦点化し、生き延びるための親密な関係性を編成してゆく現場において、映像表現がいかなる作用をもたらしているのか、また、そうした関係性を地域社会や国家、制度といった公共圏に接続する際に、映像はどのような役割を果たしているのか。本研究が解明しようとするのは、この境界領域における映像表現の可能性である。

【活動の記録】

2010 年 10 月 2 日

研究会「先住民による映像作成をめぐって」（於・京都大学）

2011 年 1 月 4 日～11 日

メキシコシティおよびサン・クリストバル市（チアパス州）における調査・資料収集

2011 年 3 月 8 日

研究会「映像における『移動圏』表象」（於・京都大学）

【成果の概要】 (800 字程度)

今年度の研究では、ラテンアメリカの映像表現における、広義の移住者をめぐる自己表象と他者規定のせめぎ合いのプロセスに焦点を当てて分析を進めた。

とりわけ、「ローカル」な移動（共同体から周辺への移住など）、「ナショナル」な移動（国内移民、また周辺諸国への一時的避難など）、そして「グローバル」な移動（アメリカ合衆国における労働を目的とした移民、またその過程で発生する様々なレベルでの移住）という各層において、移住を「強いられたもの」としてのみ設定するのではなく、そうした行為によって当初予期することもできなかったような出会いや社会的力が誕生しているという事実に注目した。

具体的には、ドキュメンタリーを中心とする映像作成行為の過程で、受動的な「被害者」としての他者規定をいったんは引き受けたひとびとが、そうした規定を流用する形で新たな自己提示を行ってゆく局面に注目する。そこに現れる新たな自己像は、一方的に与えられた弱者像ではないのはもちろん、複雑で多面的な生の現実を如実に反映しつつも、それとはどこか異なる「明日の自己」という予示的なものとなっている。つまり、移動という現実と映像という鏡を経由することにより、そこに行き遂行的な新たな<主体>の誕生が予言されているわけである。

こうしたプロセスを焦点化したことが本研究の暫定的な成果であるが、これをさらに理論的に精緻科することが今後の課題となる。

【通信欄】

(研究代表者記入)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input checked="" type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	450 (千円)	実績額 450 千円